

## 7. まとめ

産卵床形成の距離は、シロザケでは河口から未改良谷止工直下 (3,080m) まで到達した (昨年までは 2,500m まで)。ピリカベツ川の改良No.8, 10 ダムの上流 (3,400m) でも産卵床が確認された。これはシロザケの遡上に適した規模の増水が起きたため遡上したと推察された。また、カラフトマスは 2,900m (昨年度は 1,600m) まで到達した。これは本年は遡上親魚数が多かったため、上流域まで分散したと推察された。

赤イ川の改良No.13 ダム上流までカラフトマス、シロザケの遡上・産卵が確認され、改良効果の持続が確認できた。また、初めてピリカベツ川改良No.8, 10 ダム上流でシロザケの遡上・産卵があり、改良効果が確認できた。サクラマスの遡上・産卵は、イワオベツ川本流、白イ川、ピリカベツ川で少数確認され、次世代の回帰の結果が期待される状況である。

11月26日に大規模な増水があり、赤イ川No.12 ダム上流の石張法面の侵食、No.13 ダム上流の堆積部の大規模な侵食が起きた。11月26日規模の増水の場合、イワウベツ下流域では 0.8m、河口では 1.6m の大きさの石礫が移動することが分かった。イワウベツ川は、2~3年に一度は同規模の増水が起き得る河川であり、河床の石礫が頻繁に入れ替わる河川であることが確認できた。